

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」シンポジウム

# 未来社会を見据えた人文学・社会科学分野における 学術知共創の課題について

2022年12月15日

## 事業説明

事業委員長  
盛山和夫

## 未来社会を見据えた人文学・社会科学分野における学術知共創の課題について

- 「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」の事業内容及び本事業に採択された研究テーマの成果等を広く社会に発信することを通じ、
- 人文学・社会科学分野の研究者等に対して本事業を周知するとともに、本事業に参画する研究者等の交流機会を創出する。
- また、本事業の「学術知共創プログラム」に関するパネルディスカッションを通じて本プログラムに係る理解促進を図り、
- もって人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究する研究を推進する。

## 背景

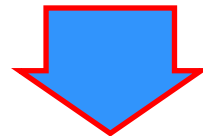
「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について(報告)」

(平成24年7月 科学技術・学術審議会学術分科会)

人文学・社会科学の振興を図る上での3つの視点として、

1. 諸学の密接な連携と総合性
2. 学術への要請と社会的貢献
3. グローバル化と国際学術空間

が、重要である。



人文学・社会科学分野の振興を目指し、平成25年度より、「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」を開始。

平成25年度～令和2年度(募集)

## 3つのプログラム

### I. 領域開拓プログラム

異なる学問分野の研究者の参画を得て、新たな研究領域への予想外の飛躍をもたらすような課題の追求や方法論の継続的な改良を目指す。

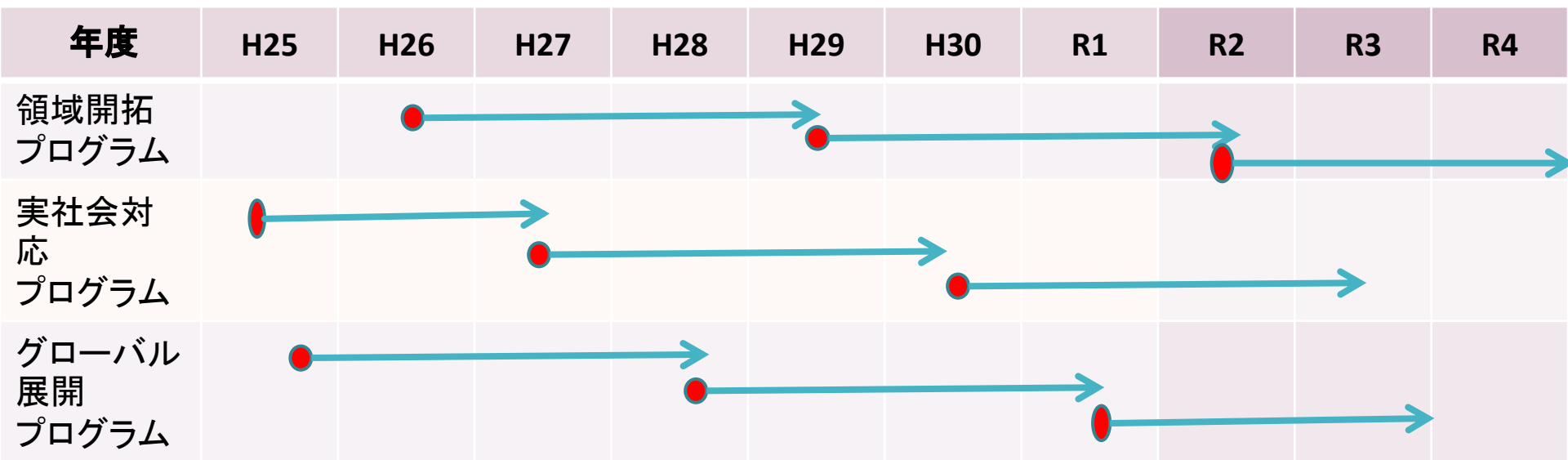
### II. 実社会対応プログラム

社会的貢献に向けた共同研究を推進するため、研究成果と実務を橋渡しできる者(「実務者」)の参画を得て分野間連携による共同研究を実施し、研究推進から成果発信までの研究者と実務者の連携を目指す。

### III. グローバル展開プログラム

人文学・社会科学の様々な分野を対象とした国際共同研究を推進し、国際的なネットワークの構築による海外の研究者との対話やグローバルな成果発信を目指す。

3つのプログラム  
研究実施期間



# 各プログラムの課題数、応募数及び研究テーマの実績

プログラム名	課題数	応募数	研究テーマ 設定型研究テーマ	研究テーマ 公募型研究テーマ
H25年度 実社会対応プログラム	6	58	2	11
H25年度 グローバル展開プログラム	5	27	2	3
H26年度 領域開拓プログラム	5	63	2	10
H27年度 実社会対応プログラム	3	57	2	9
H28年度 グローバル展開プログラム	3	38	1	6
H29年度 領域開拓プログラム	4	44	なし	12
H30年度 実社会対応プログラム	4	67	なし	8
R1年度 グローバル展開プログラム	4	49	なし	6
R2年度 領域開拓プログラム	5	75	なし	11

## 学術知共創プログラムの背景①

平成30年12月 「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて  
(審議のまとめ)」

(科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学振興の在り方に関する  
ワーキンググループ)

## 人文学・社会科学を取り巻く課題と展望

- 研究分野が過度に**細分化**している、また、・・・現代社会が対峙している**社会的課題に**  
**対する十分な応答**ができていない、との指摘が少なくない。
- 個々の専門的な研究が**マクロな知の体系との関連付け**を得ることが難しくなってる。
- 本質的根源的な問いを再設定して**、現代の諸課題に関する研究にとり組む中でそれら  
の問いに対する探究を深化させる(ことが考えられる)。
- 自然科学との連携・協働**が求められているが、自然科学による問題設定が主導する形  
となっていて、**人文学・社会科学の研究者が専門性との関連でインセンティブを持ちにく**  
**くなっている。**

# 人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト

## そのねらい

○令和元年(2019年)9月、学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会『人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト(中間まとめ)』

### (中間まとめ) より

- 意味や価値を探究し、多元的で代替的な見方を提供できる人文学・社会科学ならではの役割
- 人文学・社会科学固有の本質的・根源的問いから生じる大きなテーマのもとで・・・知を共創しながら・・・未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスを体系化

たとえば、人間性を踏まえた民主社会構築のための理論、哲学・倫理学の蓄積をもとにした生命倫理の理論など



# 学術知共創プロジェクトの構想から2つの施策

学術知共創プロジェクトの構想から二つの施策

## 1 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」

令和2年(2020年)9月より 大阪大学を実施機関として  
(事前に、文科省において実施機関を公募)

3つのプロジェクト・テーマ  
共創の場の展開を支援

## 2 本事業

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」に  
設置された「学術知共創プログラム」

日本学術振興会

令和3年(2021年)10月より

具体的な研究遂行を支援 (共創を意識しつつ)

## 人文学・社会科学を軸とする学術知共創プロジェクト

- 長期的な視座で、人文学・社会科学が中心となって取り組むことが期待される諸問題(**大きなテーマ**)の下に、自然科学の研究者や産業界や市民社会などの多様なステークホルダーなど、**分野を超えた**研究者等による研究課題と研究チームを創り上げていく環境

(事業の受託を公募したときの「公募要領」より趣旨を抜粋)

- 研究そのものというよりは、**共創**に重点
- 人文学・社会科学の革新的展開のための**基盤形成**

多様な分野の研究者を糾合して**大きなテーマ**(現実の大きな社会的課題)に取り組むことを通じて、人文学・社会科学の本質的で根源的な問いを見直し、**理論知**の新たな展開のための基盤づくりをめざす。

- 3つのプロジェクト・テーマ  
それぞれ、テーマ代表者の下で、ワークショップ、シンポジウム、研究チーム作りなどの多様な活動を展開

## 学術知共創プログラムの背景②

### 令和3年1月 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト (審議のまとめ)」

(科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会)

人文学・社会科学を取り巻く課題については、「共創に向けて」を継承しつつ

- 人文学・社会科学に固有の**本質的・根源的な問い**に基づく**大きなテーマ**を設定し、その中に自然科学も含む分野を超えた研究者が参加し、問いに対する探究を深めていく共創型のプロジェクトを行うことが有効である。
- 現状ある**諸課題**やそれに対する取組を踏まえながら、解決方策が十分には探究されていない、あるいは問題が顕在化していない30～50年先(2050～2070年頃)の国際社会や我が国社会を見据えた**長期的な視座**が必要なもので、かつ人文学・社会科学分野が中心となって取り組むことが**適当と考えられる大きなテーマ**

# 大きなテーマとは

- 研究分野が過度に細分化されている中で、現代社会が対峙している**社会課題に** **応答**しうるような人文学・社会科学の学術知の展開をはかることをめざし、大きなテーマに関心を共有する**多様な**研究者等が共創する。
- その共創を通じて、**大きなテーマに対し**、さまざまな角度から、具体的な研究課題が創り出されていくことを期待。

## 具体的には

次の3つが例示されている

- ① **将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方**  
我が国および世界の人口動態を見据えながら、いかにして人間中心で多様性のある持続可能な社会を実現していくか
- ② **分断社会の超克**  
分断の構造を捉え直し、乗り越えていくための道筋を示すことができるか
- ③ **新たな人類社会を形成する価値の創造**  
気候変動、科学技術の進展など、人類社会の価値の見直しと創造が求められている。新たな人類社会を形成する価値の創造にいかに貢献することができるか

○ 本来的には、大きなテーマは他にもあり、それらの探究は推奨されこそすれ、けっして妨げられない。

○ 人文学・社会科学の基本に立ち帰った**果敢な知的挑戦**。

# 令和3年度より 学術知共創プログラム

上記特別委員会の「審議のまとめ」(令和3)を踏まえ、先導人社事業を部分改編し、人文学・社会科学のより挑戦的で根底的な発展をめざした研究支援スキームとして「学術知共創プログラム」を設置。

## プログラムの趣旨

## 令和4年度公募要領より

未来社会が直面するであろう諸問題(「大きなテーマ」を継承した3課題)に係る**有意義な応答**を社会に提示することを目指す研究テーマを掲げ、人文学・社会科学から自然科学などの**多様な分野の研究者**や社会の多様なステークホルダー(産業界、NGO、マスコミ、行政、公益法人等)が参加して、人文学・社会科学に固有の**本質的・根源的な問い**を追究する研究を推進することで、その解決に資する研究成果の創出を目指します。

## 事業体制と特徴

- 3つの「**大きなテーマ**」による、**3課題**を設定。
- 事業としては、大阪大学の「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」とは「**独立で異なる事業**」。
- 事業委員会において制度設計と運営。独立した「**部会**」において、審査・評価。
- 支援単価は、直接経費については、1,500万円弱/年度。期間は、最長6年。

### 1) 研究テーマの性格

- ① 応募内容提案書の内容がプログラムの趣旨及び設定された課題の内容に合致したものであるか。
- ② 課題に関する有意義な応答を社会に提示することを目指したものであるか。
- ③ 人文学・社会科学から自然科学などの多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダーが参加して、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究するものであるか。
- ④ 人文学・社会科学を軸として新たな学術知を共創することが期待できるものであるか。

### 2) 研究内容・方法

- ① 研究内容はパラダイムの革新や創造を目指して取り組んでいるものであるか。
- ② 研究内容は現状の諸課題やそれに対する取組を踏まえながら、解決方策が十分には探究されていない、あるいは問題が顕在化していない 30 年～50 年先の国際社会や我が国社会を見据えた長期的な視座が必要なもので、かつ人文学・社会科学が中心となって取り組むことが適当と考えられるものであるか。

# 審査に当たっての要素と観点（一部略） 続き

## 3) 研究実施体制

- ③ 専門分野、性別、年齢、国籍、所属機関などに関して多様性をもっているとともに、世代間の協働や国際的な取組にも配慮して構築されているか。
- ④ 研究期間終了後において、研究者間のネットワークの広がりが期待できるものか。
- ⑤ 国際ネットワークのハブとなり、国際的にリードすることが強く期待できる体制になっているか。

注： なお、JSPSの「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」においては、応募テーマの審査・評価については、事業委員会とは独立した「部会」が担当しており、事業委員会そのものは応募テーマの審査等のプロセスには関わらないしくみになっている。

## 応募・採択状況

課題名	令和3年度		令和4年度	
	応募	採択	応募	採択
A：将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方	12	0	7	0
B：分断社会の超克	10	1	10	0
C：新たな人類社会を形成する価値の創造	9	1	12	2
合計	31	2	29	2



# 令和5年度学術知共創プログラムについて

## <令和5年度公募に係るスケジュール(予定)>

○令和5年1月                      公募開始

○令和5年3月                      公募締切

○～令和5年5月末頃              審査

○令和5年6～7月頃              研究開始

※公募要領等は本事業のホームページに掲載いたします。

<https://www.jsps.go.jp/kadai/index.html>

# 最後に、本日のシンポジウムのテーマについて

未来社会を見据えた人文学・社会科学分野における学術知共創の課題について

平成30年の「審議のまとめ」(ワーキンググループ)の問題意識

人文学・社会科学を取り巻く課題

- 研究分野の**細分化**
- 社会的課題**に対する十分な**応答**ができていない
- 各研究の**マクロな知の体系との関連付けの弱さ**
- 自然科学との連携・協働**が求められているが、**インセンティブ**を持ちにくい

令和3年の「審議のまとめ」(特別委員会)での提言

- 人文学・社会科学に固有の**本質的・根源的な問い**に基づく**大きなテーマ**を設定
- 自然科学も含む**分野を超えた研究者が参加
- 共創型**のプロジェクト
- 現状の**諸課題**に対する取組
- 長期的な視座**が必要なもの

こうした「学術知共創の課題」について、どう考えたらいいか